

日本の早期英語教育を発展させるために
～オランダの小学校英語教育の手法を参考にして～

伊藤 凜

近年、グローバル化が進んで訪日外国人が増加したことにより、ビジネスや日常生活の中で英語を話す機会が増えたが、英語でのコミュニケーションを得意とし、世界で活躍できる人材が少ない現状である。しかし、国や企業が発展するためには他国との関わりは必須であり、良好な関係を保っていくためにも国際共通語である英語を話すことは避けて通れない。

日本では2020年から小学校中学年の外国語活動が開始され、英語教育の早期化の動きが見られる。中学年では英語で会話をする楽しさを体験することが大切であるとされており、高学年では書く活動により自己表現ができることが英語学習の狙いとなっている。また、小学校の英語教育の課題の一つとなっている教員養成に関しては、研修に参加した教員が主体となり、授業公開等を通して指導方法等を伝授していくことで、英語教育の発展に繋がることが期待されている。

オランダは国民の英語力が高い国として有名であり、児童はテレビなどを通して日常的に英語に触れている。オランダの小学校英語教育は日本の教育方法と似ている部分がある。しかし、オランダでは児童が興味を引かれる音楽やテレビ番組を活用して英語の学習活動が行われるため、楽しんで英語を学んでもらうための工夫がなされていることが特徴である。

本稿では、グローバル社会で必要とされる英語の重要性について論じ、日本の小学校英語教育の現状と課題について明らかにしている。また、オランダの小学校英語教育を検討し、日本の小学校英語教育を発展させていくための方法について論じている。